

熊谷市の概要：やさしい未来発見都市 熊谷

概要

人口	約19.3万人 (R5/6/1)	高齢化率	30.28% (R5/6/1)
可住地人口密度	1,284.4人/Km2	昼夜間人口比率	89.61% (RESAS)
都市の特徴・周辺地域との関わり	東京都心から50～70キロメートル圏に位置し、ほぼ平坦で荒川や利根川の水に恵まれた肥沃な大地と豊かな自然環境を有している。第65回日本統計年鑑によると、快晴日数は64日と日本一を記録。またH30年（2018年）7月23日には41.1℃を記録し、当時の国内最高気温を更新した。交通において熊谷駅は、上越・北陸新幹線やJR高崎線、秩父鉄道が結節している。国道は東西に17号・17号バイパス、南北に407号が走り、中山道の宿場から発展した熊谷は、現在も交通の要衝である。		
将来都市像	子どもたちの笑顔があふれるまち 熊谷 ～輝く未来ヘトライ～		

サマリー

- 他地域との客観指標を用いた比較では、①近隣自治体、②本市と類似した人口規模の自治体、③都市部からの移動時間が同等の自治体といった多角的な視点で分析した。
- 他地域と比較した本市の特徴は、「住宅環境」、「公共空間」、「デジタル生活」、「初等・中等教育」のKPIが高い。住宅環境は、市域が広く古くから農業が盛んな地域であることから、一戸建ての持ち家の割合が多いことに加え、住宅あたり延べ面積が広いということが起因していると考えられる。またデジタル生活が高い要因は、本市は、市民目線でデータ活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指したスマートシティを推進していることが考えられる。
- 一方、「健康状態」、「子育て」は、他市と比較しても低く表れている。健康状態は、スマートシティ推進施策で、デジタルを活用した効率的で可視化できる健康管理の取組によって市民の健康増進を図り、健康寿命の延伸を目指す。また子育ては、保育所への距離1kmの住宅割合が39.0と低いことが要因と考える。しかしながら、本市は行政、教育・保育施設関係者、その他関係団体と相互に連携し、共同して子育て支援の取組をしている。
- 「移動・交通」については、コミュニティバスの回数券の電子化によって、利便性の向上やバス利用の促進を図る。また乗車・降車データの蓄積・更新により、コミュニティバスの再編といった運用改善を図る。今後は、交通空白・不便地域を解消に向け、AIオンデマンドを含めたMaaS導入について検討を進める。その際は、既存の交通事業者への影響も配慮した上で、地域特性に適した最適な公共交通について、ランドデザインを描きながら推進する。最終的には、便利で快適な公共交通サービスが整備された回遊性の高いまちの実現を目指す。

因子別グラフ

